

【活動報告】ウクライナ避難民支援

2022年4月11日(月) ～ 2022年4月17日(日)

【寄付金使用状況】

寄付総額: 62,499,333円 (2022年4月18日時点)

送金総額: 3000万円 (約 1,014,844.40zł (ズウォティ))

寄付金使用総額: 218,943.70 zł (約647万円)

(4月10日(月)～4月17日(日)の期間中の使用額: 59,898.80 zł (約177万円))

【活動内容】

①クラクフ市内の数か所のシェルターへの支援物資提供

引き続き、クラクフ中央駅簡易避難所ボランティアスタッフと連携し、必要物資の購入。



JCC(ユダヤコミュニティセンター)でもウクライナ避難民の支援を行っており、食糧が不足していると報告を受け、食糧物資の提供を実施。

JCCでは、福田会レストランプロジェクト参加店のクーポンも配布してもらっている。



②レストランプロジェクト

各店舗ともクーポン利用者が徐々に増え、クーポンを利用した方から「なんてお礼をしたら良いのか分からない。ありがとう。」と電話を頂いた。

写真:3店舗目 Wesole Pierozkiにて食事をする親子



写真:4店舗目 Szalona AzziPによるシェルターへのハンバーガー提供により、ハンバーガーを食べる親子



温かい食事は需要が高く、ハンバーガー20個はあっという間になくなってしまい、避難民同士で「それを譲って欲しい。」と口論になる場面があった。

これを受け、ひとまず4月15日より朝晩70個ずつのペンネ提供を開始。
(朝:クラクフ中央駅構内簡易避難所 晩:クラクフ中央駅外カリタス簡易避難所)
量が多いようなら調整していく事となった。

③児童養護施設への支援活動

ポーランド北部にある児童養護施設・Powiatowe Centrum Młodzieży w Garczynieと連絡をとり、福田会でウクライナ人教師2名の雇用サポートをすることが決定した。
契約書作成など、引き続き施設長と交渉中。

【現地の動向】

- ・ポーランドに流入したウクライナ避難民の数は、総計300万人近くとなった。
- ・流入する人が後を立たない一方、ウクライナ西部にポーランドに避難していた方が戻るような状況も見受けられる。(参照:<https://news.asagao.pl/2022/04/12/przemysl/>)
- ・先週末～本日にかけて現地がイースター休暇に入った関係で、ショッピングセンターが休みになる前の買いためが発生したものの、基本的に物資の深刻な不足は見受けられない。
- ・一方で、ウクライナ国内では、深刻な食糧・日用品不足が起こっているとの報告が、現地関係者から寄せられている。(キャットフードを水でふやかして人間が食べている、古米を砕いてパンを作っているなど)
- ・ポーランド現地では、長引く状況にボランティア「支援疲れ」もしばしば見受けられる

【今週の活動予定】

・各シェルターへの継続した支援物資提供
シェルターは一時的な拠点とする方が大半のため、食糧支援のほか、今後の移動に備えたスーツケースなども支援してもらえると助かるとの声があった。
シェルター内に十分なスペースがないため、少量ずつでも提供できないか要検討。

・レストランプロジェクト
引き続き、理想的なクーポン配布場所の検討。
シェルターへの配達は、1度の配達量が多いため、量が適切かどうか今週いっぱい様子を見る。

・児童養護施設への支援
キッチン設備購入を支援した施設に、引き続き食糧品、日用品などをまとめた量、支援することを検討している。

・**Hope for Mundial**(子どもたちのためのサッカーワールドカップ主催団体)への支援
先方とやり取りを行い、どのような協力ができるか聞き取り中。方針が決まり次第、支援を開始する。

・活動拠点(オフィス)の引っ越し後の整理整頓